

Close-up Interview

(5月号 表紙の顔)

新型コロナウイルスの影響で、多くのボウリング場が営業自粛を強いられている。本紙も取材さえままならない状況で、今月の表紙には、昨年表紙を飾っていただいたプロの中から、久保田彩花、浅田梨奈、川崎由意の48期生3名に再登場いただいた。ここではそれぞれの近況や、ボウラーへのメッセージなどをうかがった。

久保田 彩花

(ライセンスNo.526 所属:フリー)

「楽しいことが待っていると信じて
今は感染予防に努めましょう」



あとは、これまで本格的にはトレーニングやストレッチをしてこなかったんですが、体と相談しながら筋トレなどをやっています。いきなり試合になると、体がついてくるのかなという不安があるし、ダメになったといわれるのは嫌なので、できる範囲で練習や対策をしようと思っています。

これまで投げることでストレス発散をしていたボウラーの

4月上旬の緊急事態宣言のあとは、まだ自粛要請の出ていなかった和歌山県のJボウルさんで練習をさせてもらっていました。だれもない時間帯に、黙々と投げている感じが、ありがたかったですね。

時間の使い方としては、今ゲームにはまっています(笑)。

皆さんは、それができない状況はつらいと思いますが、コロナ騒動が収束したときに楽しくボウリングができるように、今は我慢しましょう。私もマスク着用や手洗い、うがいなどはもちろん、電車やバスなどの公共交通機関も使わないなど、できる限りの対策をしています。

浅田 梨奈

(ライセンスNo.528 所属:スターレーン)

「皆さんのすきま時間を埋めようと
毎日ユーチューブで発信しています」

最初に7都府県に緊急事態宣言が出たときは、まだ営業していた栃木や群馬のセンターに、ここもいつ休業になるかわからないという危機感もあって、毎日行って投げていました。

4月17日に緊急事態宣言が全国に拡大してからは、ほぼ家にこもっている生活です。もともとアウトドア派なので、どう過ごしたらいいのかわからなくて(笑)、それがストレスです。今年からリストタイが禁止になって、素手で練習をしているとき

に、腕への負担を減らすためにも、体幹トレーニングの大切さを感じたので、投球練習ができない分、しっかりトレーニングをしようと思います。

こんな時期になにか自分で発信できないかなと思っていましたが、ランクシーカーさんからきっかけをいただいて、毎日約1時間、ユーチューブでライブ配信を始めました。みんなのすきま時間を埋めるよ



うなものにしたいと“りなぼけっと”というチャンネル名にしました。いろんなプロも今はやりのZoomでゲスト参加してくれています。ぜひアクセスしてみてください。

川崎 由意

(ライセンスNo.533 所属:アイキョーボウル)

「笑顔でボウリングができる日が
早くくることを願っています」



今まったくボウリングはできない状況で、我慢の時期と諦めて、家にこもっています。今年から素手になって、1月に福岡であったラウンドワンランドチャンピオンシップの選抜大会をいい感じで投げられて、JPBA決勝大会への出場権も得られたのに、このブランクでどうなっちゃうのかと不安です。

料理はほとんどしたことがありませんでしたが、今はずっと家にいるので、少しずつレパートリーを増やそうと思っています。また“プロボウラーおにぎり”と、岩見彩乃プロと一緒に“のいゆい闘魂倶楽部”というチャンネル名でユーチューブを配信しています。テレビ電話の感じで話ができたり、皆さんのコメントで逆に元気づけられたり、それがストレス解消になっています。

今は練習もできなくて不安がありますが、トーナメントが再開したときに、見にきた方にやっぱりボウリングって楽しいと思ってもらえるような試合をしたいし、チャレンジなどで皆さんと笑顔でボウリングができる日が早くくることを願っています。

随時掲載 “社長プロ”鈴木馨の企業散歩②

「高校時代はプロボウラーに憧れていた」ジュエリー業界のヒットメーカー

今回の訪問先は、2年前に「株式会社サダマツ」から社名を改めて間もないフェスタリアホールディングス株式会社です。

同社のルーツは1920年(大正9年)に現在の長崎県大村市で創業した「貞松時計店」で、90年代に入って宝飾品の製造・販売を手がけるようになり、現在は国内91店舗、海外に7店舗を展開するジュエリー業界の“勝ち組”。お話は、同社のメガヒット商品「Wish upon a starシリーズ」に携わった笠原浩一さん(現festariaTOKYO代表)に伺いました。

「もともとジュエリーは資産価値とファッションが主でした。

そこに(スポーツの)お守り的な要素を加えたくて“Wish upon a star 夢を叶える、二つの星のダイヤモンド”を考案しました。スポーツでは『星をとる』というように、星で勝負を表現しますし、世界の国旗の約3分の1には星が配されています。人間は、昔から空を眺めて何かを感じていたんですよ(笠原さん)

スコープでダイヤモンドをのぞくと、中に二つの星が見える。Wish upon a starは、筆者も大のお気に入りのシリーズです。

笠原さんは1955年(昭和30年)、福岡県生まれの九州男児。何と、高校時代の3年間はジュニアボウラーとして活動していたそうです。

「家から自転車で通える圏内



▲笠原氏(右)と鈴木博

に3カ所ボウリング場があったんです。山中順之助プロ(故人)に憧れて、1、2年のころはプロボウラーになるのが夢でした。しかし、3年時にはオイルショックの余波でボウリング業界

は急速に冷え込み、近所に建設中だった4つ目のボウリング場は完成前に消滅。笠原さんは「方針を変更してミュージシャンになろうか」と思っていた(笑)。レコードを出したこともあるんですよ」というからビックリ!

そうした紆余曲折を経て?

フェスタリア社に入社後は、ゴルフに熱中していたそうですが、40代に突入したころに「もっと短時間で、少ない人数でできるスポーツがいい」と思い直し、地元・福岡勤務時代にボ

ウリングに復帰現在は家族で競技会に参加してプレーを楽しむだけでなく、筆者が企画する承認大会をはじめ、数多くの大会の協賛スポンサーとしてボウリング界を支援して下さっています。

「九州で活動しているとき、遠征には周りの人たちがクルマに乗せて連れていってくれました。当時とてもよくしてもらったから、何か少しでも恩返しができるかな、と思っています。少しずつ、数多く、ね」

「今でもプロボウラーは、憧れの存在」という笠原さんのメッセージは「夢は叶うWish upon a star」。ボウリングでも、何か別の目標でも、常に心強い言葉で応援して下さいます。

笠原さんが「恩返し」と思って下さっているように、筆者もいつか笠原さんに恩返しができるように頑張らなければ、と改めて思ったのでした。